

校長つうしん No.18



2017.4.24

鈴木 恵一



『風をうけて』は、昨年度と同様に渡日生徒も読めるようにルビ付きにします。

日本語以外を母語とする生徒にとって、ひとつの言語で3種類の文字(漢字、ひらがな、カタカナ)を使い分ける日本語に戸惑いを感じるでしょうが、ここでは新聞・放送業界での表記や、内閣、国語審議会、文部科学省が示す公用文などもお手本にしながら書きます。

可能な限り常用漢字を基本としますが、公用文では、ひらがな表記が望ましいとされているものもあるので、そこは臨機応変に対応したいと思います。

新年度スタート！

～ 開校10年目の学校として ～

◆石も磨けば……

4月10日に始業式・着任式、11日に入学式を無事に終えました。そして22日の授業公開・保護者相談会、PTA・振興会総会も無事に終わることができました。関係各位に改めてお礼申し上げます。

大通高校は平成20年(2008年)4月に新しいタイプの学校として開校し、この4月で10年目に入りました。これまで生徒と保護者、外部支援者の方々、教職員の努力によって進化し続けてきた学校です。私も校長として、今後もよい環境づくりのために努力いたします。



さて、新入生のみなさん。新入生歓迎会では先輩たちの心温まる歓迎に、心の緊張がとけたのではないでしょう。私は、入学式の式辞で次のような話をしました。

私が高校の恩師からいただいた言葉です。

「石も磨けば玉となる」



道ばたに転がっているなんの変哲もない石でも、それに価値を見出し、懸命に磨けば光り輝く美しい玉になるという話です。チャンスは、私たちの身近なところにあります。それを見つけて、あなた自身の手で磨いて新たな価値を生み出してください。価値は、価値を見出そうとする人の心に宿ります。

◆コーピング・リレーション (coping relation)

始業式ではこんな話をしました。

他者との関係性 (relation) の問題に対処 (coping) するために

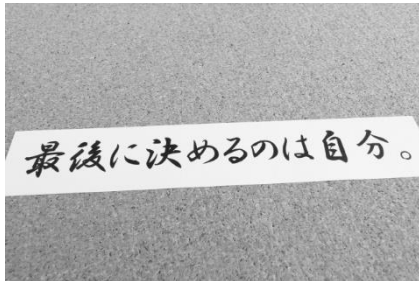
はどうしたらよいのか？



人間関係をうまく築くことができないばかりに、自信が持てない、自己肯定感を高められない、意思決定できない、それが高じて、学校がつまらない、将来に希望が持てない……そういう若者はいつの時代にもいましたが、現代はそうした状況に陥る可能性が高いともいわれています。絶えず変化する社会環境のなかで、希望をもって自立的に未来を切り拓いて生きていくためには、変化に対応していく力と態度を身につけることが望まれています。

私たちは、人生においてさまざまな役割を果たしています。一人ひとりが必ず誰かの役に立っているのです。以前、そのことを使命 (いのちの使い方) という視点で書きました。学生でいる間は、社会へ直接貢献することよりも勉強することに多くの時間を割きますが、社会人になると自己の役割を自覚しながら仕事を基盤にして自立をめざします。それは、自分の存在価値や他者との関わりのなかで生きる自分をどう意味づけていくか、常に考えることの連続です。

◆ヒト、モノ、コトと向き合うこと



人間関係のあり方は実に多様で、人はさまざまな体験を通じて、よりよい人間関係のあり方を学んでいきます。体験は積み重ねることによって必ず力になります。誰かとの出会い、会話、他者との協働、見たもの、聞いたこと、読んだこと、考えたこと、感じたこと、話したことのひとつひとつに意味があります。その過程では成功もあれば

失敗もあります。

ヒト、モノ、コトと向き合うためには、自分の心と向き合う必要があります。自分の心で決めなければ初めの一歩が踏み出せません。それは、日常の小さな小さな積み重ねを繰り返していくことです。

でも、小さな積み重ねが、案外、難しいのです。

「そんなちっちゃなこと、どうでもいい」と思ったり、「今日は省略しよう。後回しで……」となりがちです。小さくてもいい、一歩ずつ取り組む努力をしてください。今年度もあなたを応援します！